

大人のレッスンシリーズ

ウクレレを弾こう!



Contents

1章 ウクレレを知ろう

- 1 ウクレレの種類 4
- 2 ウクレレのパーツと名称 6
- 3 ウクレレと一緒に揃えておきたい小物 8
- 4 ウクレレの弦について 10
- 5 弦交換について 11
- 6 チューニング 16
- 7 日々のメンテナンス 19

2章 基礎編

- 1 楽器の構え方 20
- 2 右手の構え方 22
- 3 左手の構え方 24
- 4 ウクレレに必要な読み方 25

3章 コード編

- 1 よく使うコードの形 28
- 2 バレー・コードを押さえよう 36
- 3 バレー・コードを押さえるコツ 37
- 4 2本弦のバレー・コード 40

4章 ストローク編

- 1 ストロークの記号とコツ 42
- 2 オルタネイト・ストローク 44
- 3 空振り 46
- 4 コード・チェンジ 48
- 5 ブラッシング 53



5章	メロディ、アルペジオ編	
❶	メロディを弾く右手の構え方	56
❷	ドレミを弾く	57
❸	メロディ・バンプに挑戦	58
❹	ソロ・バンプに挑戦	59
❺	アルペジオ	60
6章	ウクレレ・スコア	
	アロハ・オエ	63
	タフワフワイ	66
	ビヨンド・ザ・リーフ	68
	カイマナ・ヒラ	70
	ハワイアロハ	72
	楽典	74
	コード一覧表	78

1 章

ウクレレを知ろう

ウクレレを弾く前に、その種類や構造、揃えておきたい小物、そしてチューニング方法などを確認しましょう。

1 ウクレレの種類

ウクレレといっても、様々な種類があります。ここでは代表的な4つの種類を見ていきましょう。

■ ソプラノ・ウクレレ

サイズの一番小さなウクレレになります。弦も押さえやすく持ち運びも楽なので、最初を買うのはこのサイズがよいでしょう。

本書では、もっとも多く使用されているソプラノ・ウクレレを使って話を進めていきます。



■ コンサート・ウクレレ

ソプラノ・ウクレレよりひと回り大きいのが特徴で、よりしっかりした音が出ます。



■ テナー・ウクレレ

コンサート・ウクレレよりひと回り大きい、低音の響きが豊かな音色のウクレレです。



2 ウクレレのパーツと名称

ウクレレは、大きく分けてヘッド、ネック、ボディでできています。

ボディ

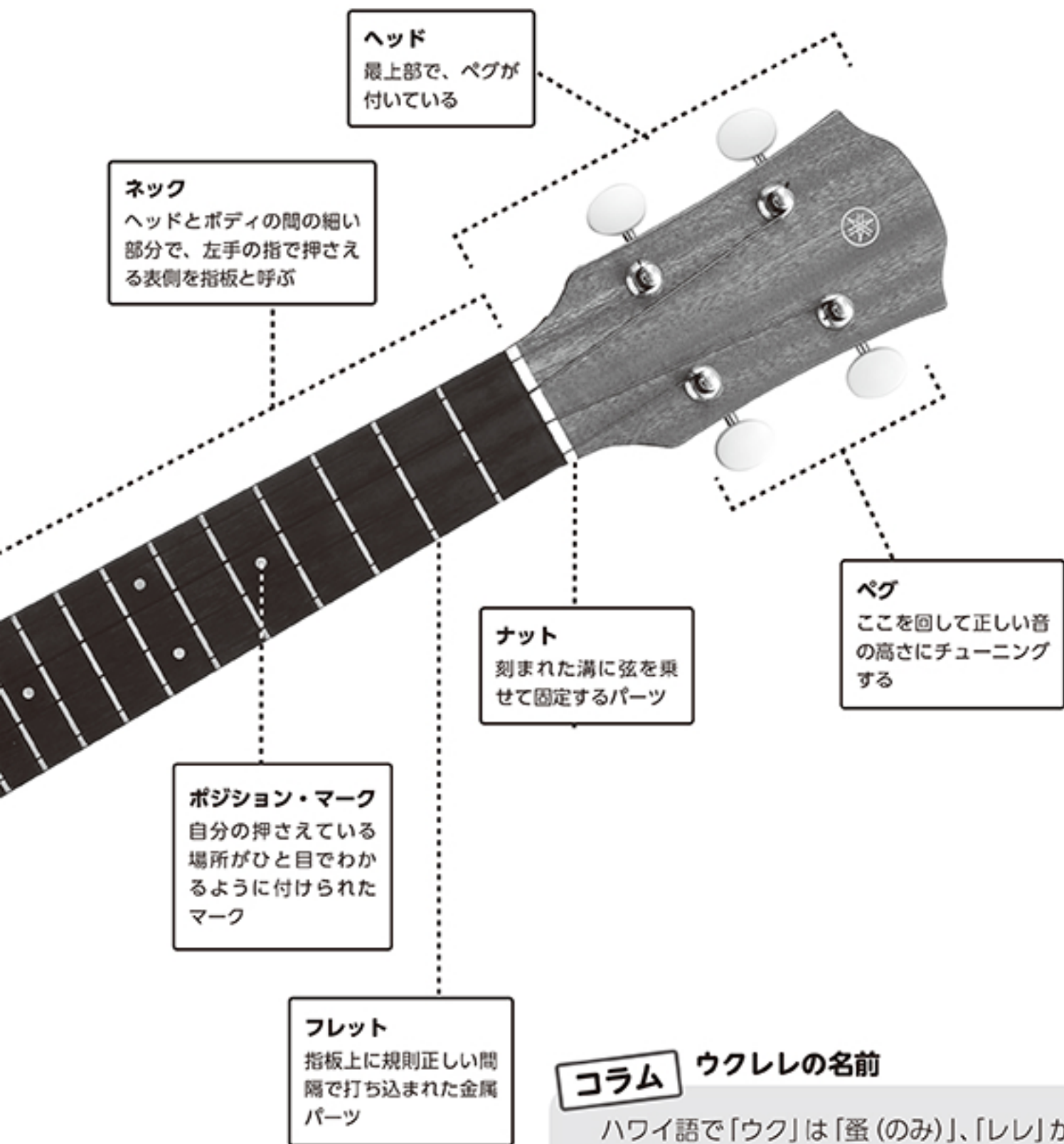
胴体部分。弦の振動はボディの内部に伝わって響くことで音が出る

ブリッジ

ボディ側で弦を支えるパーツ

サウンドホール

弦の振動がボディ内で共鳴し、この穴から音が出る



コラム ウクレレの名前

ハワイ語で「ウク」は「蚤(のみ)」、「レレ」が「跳ねる」を意味する。ウクレレを弾いている動きや弾きながら踊るさまが、蚤のように見えたことから名付けられた説や、ウクレレの音が蚤の跳ねたような音に聞こえることから名付けられたなど、諸説あります。小気味よい軽快な感じが、ウクレレの印象ということですね。演奏するときも、軽やかに跳ねるように弾くことを意識しておくといいかもかもしれません。

3 ウクレレと一緒に揃えておきたい小物

ウクレレを弾くにあたって、持っている便利な小物を紹介します。

クリップ式チューナー



▲正確なチューニングをする際に活躍します。

メトロノーム



▲一定のリズムを刻みます。練習には欠かせません。

楽器ケース



▲持ち運びには欠かせません。頑丈なハード・ケース(左)と軽いソフト・ケース(右)があります。

ストラップ



▲楽器に付けて肩にかけるためのもので、立ってウクレレを弾くときに使うこともあります。

クロス



▲ギターに付いた汗や汚れを拭き取る布です。楽器の表面に傷が付かない、専用のものを使いましょう。

譜面台



▲楽譜を置くための台です。正しい姿勢で弾くにはあった方がよいでしょう。

ニッパー



▲弦交換の際に、余った弦を切るために使います。

爪切り

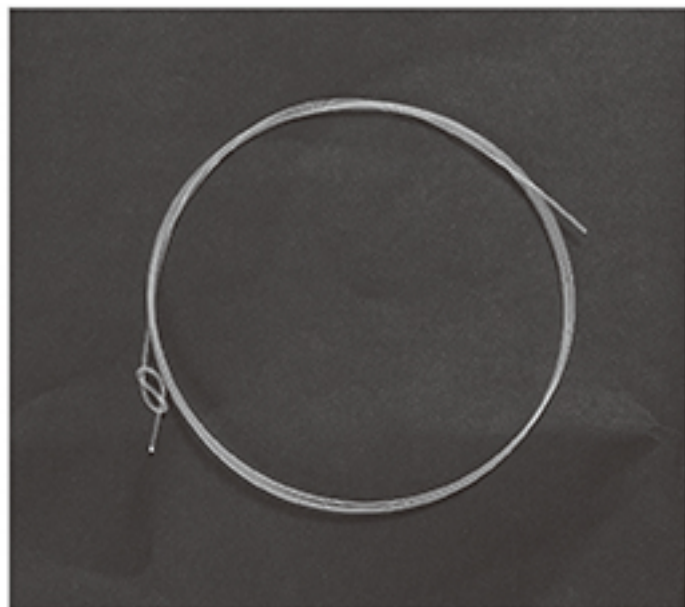


▲ウクレレは、左手の爪が伸びているとうまく弦を押さえることができません。楽器ケースなどに常備しておきましょう。

4 ウクレレの弦について

多くのメーカーが様々なウクレレ用の弦を作っています。それぞれ弦の素材や、太さ等が異なり、それぞれに特徴があります。初めのうちは楽器店の店員に聞いて、500円前後のセット弦を選ぶとよいでしょう。

白い弦



▲透明掛かっている色のクリアー・ナイロン製の弦です。指板の色が濃いウクレレの場合、白い弦の方が弦の位置がわかりやすいでしょう。

黒い弦



▲色の黒いブラック・ナイロン製の標準的な弦です。初めはこの黒がおすすめです。

セット弦



▲ウクレレの弦は4本セットで売られています。各弦の太さが数字で表されており、標準的な太さは、「024.032.034.028」(単位はインチ)になります。

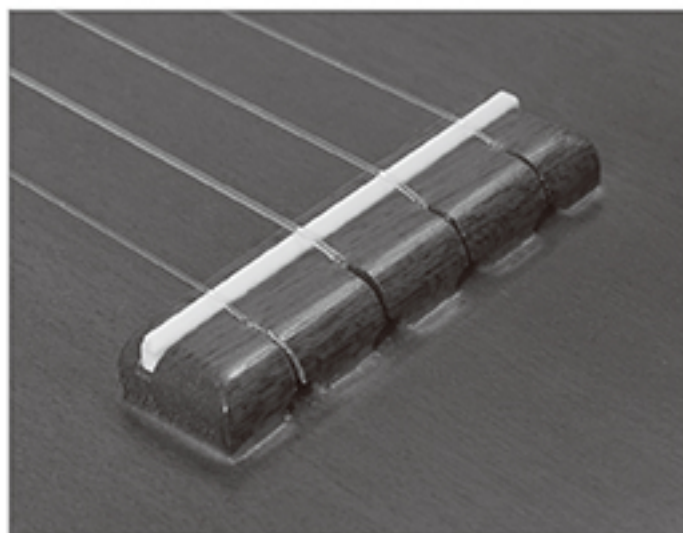
5 弦交換について

ウクレレの弦は半年を目安に定期的に張り替える必要があります。長期間弾いていると弦とフレットの触れ合う部分が摩耗し、音程が合わなかったり、音が雲ってきたりするためです。

ブリッジのタイプ

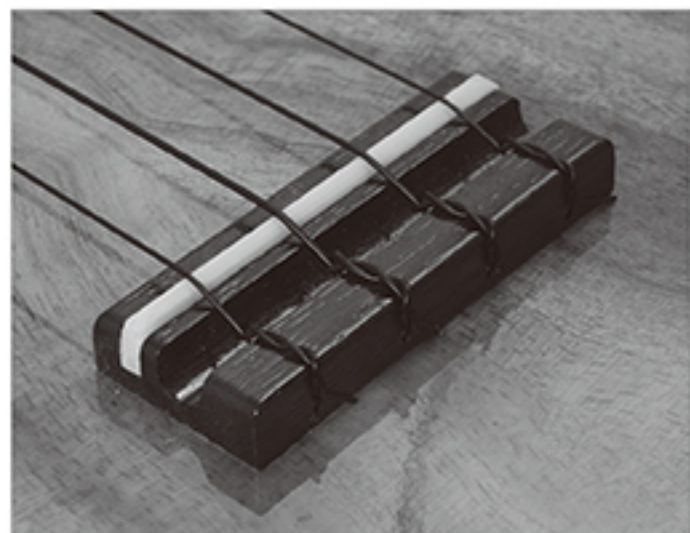
ウクレレにはブリッジの形状が2種類あり、それぞれ弦の張り方が異なります。自分のウクレレがどちらのタイプかを確認しましょう。

●引っ掛けタイプ



▲弦をブリッジの部分に通して引っ掛けて固定するタイプです。弦交換がクラシック・タイプに比べて手軽です。

●クラシック・タイプ



▲弦をブリッジの部分で巻くタイプです。チューニングがより安定するブリッジの形状です。

コラム ウクレレの由来

ウクレレはハワイの民族楽器です。ポルトガル人がハワイに持ち込んだ「プラギーニャ」と呼ばれる楽器が原型になっているといわれています。プラギーニャも小さな4弦の楽器で、長い船旅の必需品だったようです。ハワイに渡ったのは1879年の8月23日。ハワイではこの日をウクレレの日と定めているのだそうです。



引っ掛けタイプの弦交換の方法

●手順1



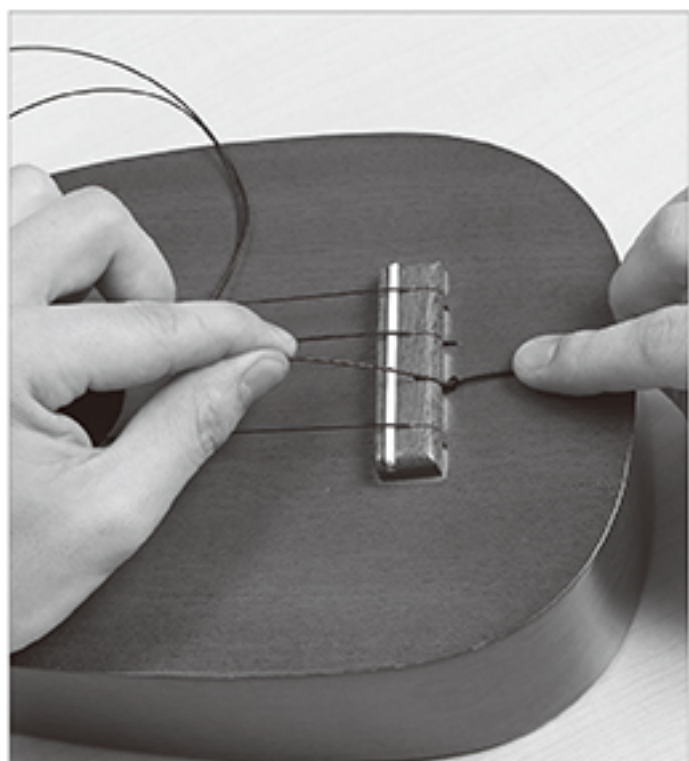
▲ペグを緩めて、古い弦を外しましょう。

●手順2



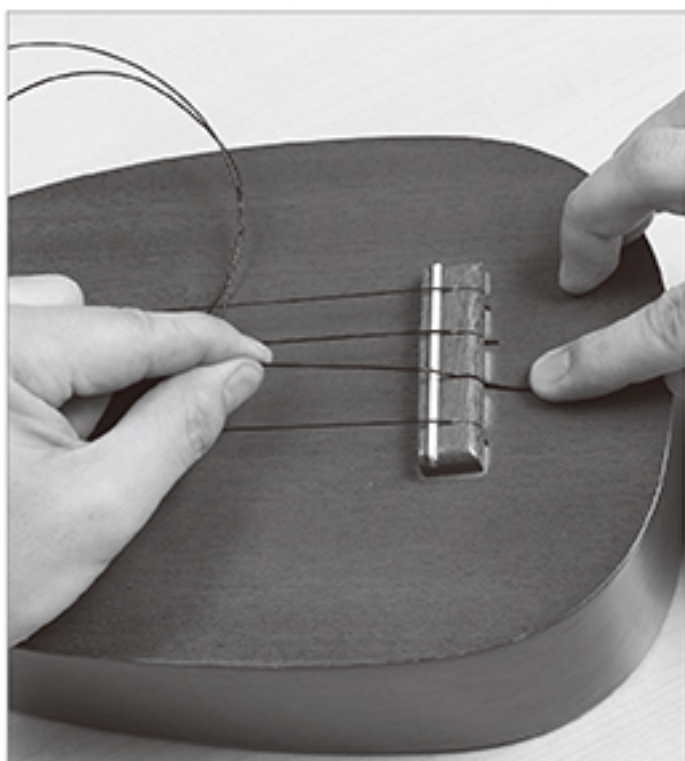
▲新しい弦の先を結んでコマを作ります。1弦や4弦の細い弦は2回結びましょう。

●手順3



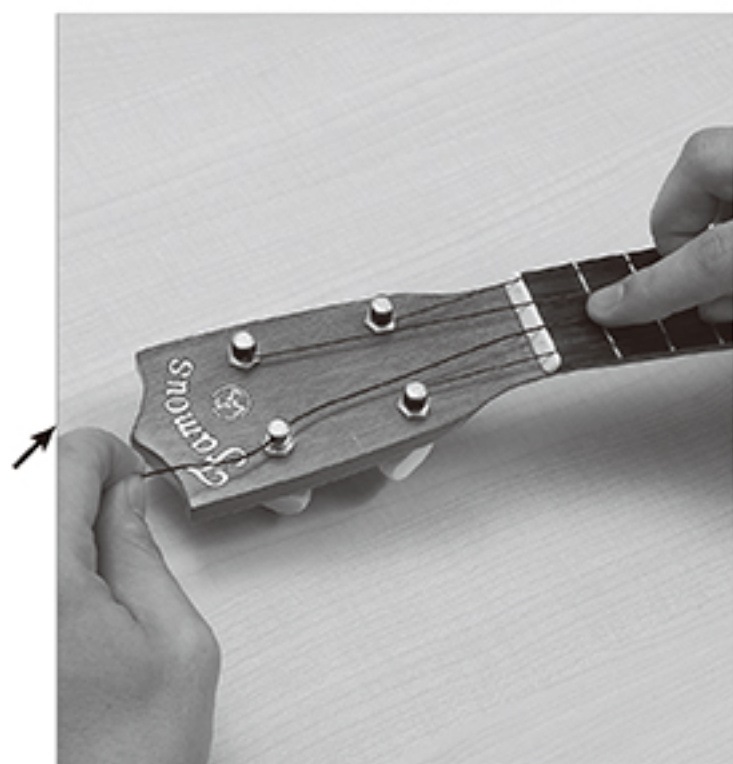
▲新しい弦を溝に通すように引っ掛けます。

●手順4



▲溝の近くで弦を押さえて、弦を指板側に引っ張ります。結びの遊びがないか確認しましょう。

●手順5



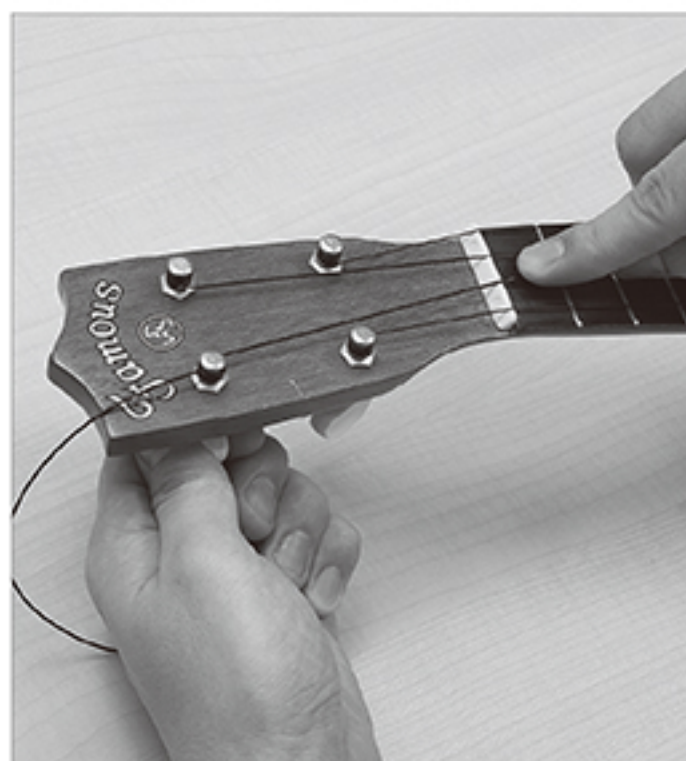
▲弦をペグの穴に通し、巻く分の余分を5～6cmにし、そこを左手で持ちます。

●手順6



▲弦を右手で少し引っ張りながらペグに1回巻きます。このとき左手は弦から放します。

●手順7



▲弦を右手で引っ張り、ナットの溝に乗せペグに巻きます。弦が下に重なるようにしましょう。

●手順8



▲最後にブリッジから出ている弦の余りをニッパーで切りましょう。ヘッド部分も邪魔であれば切ります。

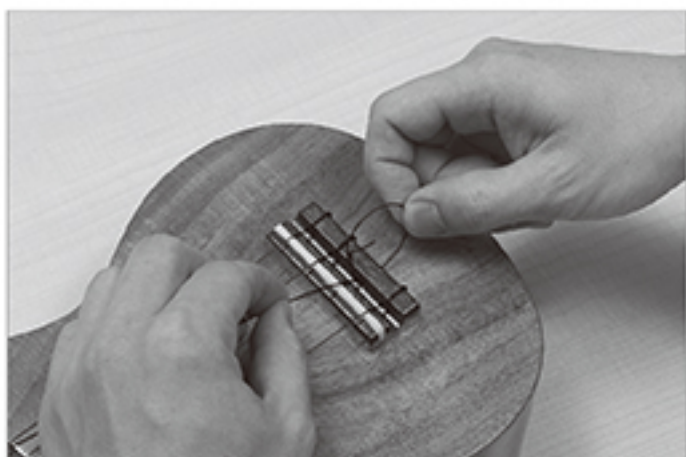
クラシック・タイプの弦交換の方法

●手順1



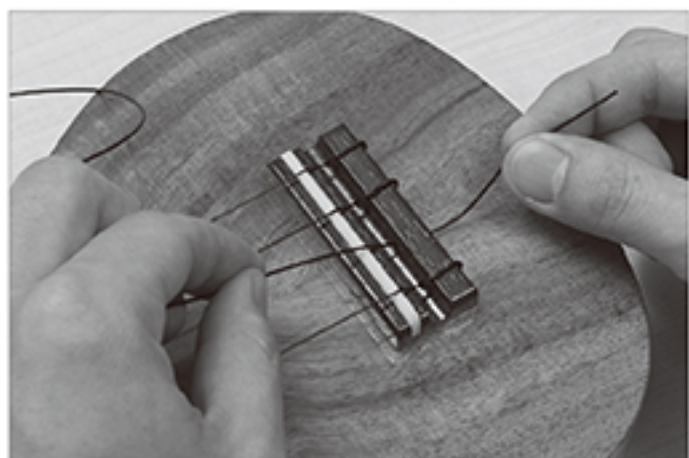
▲ペグを緩めて、古い弦を外しましょう。

●手順2



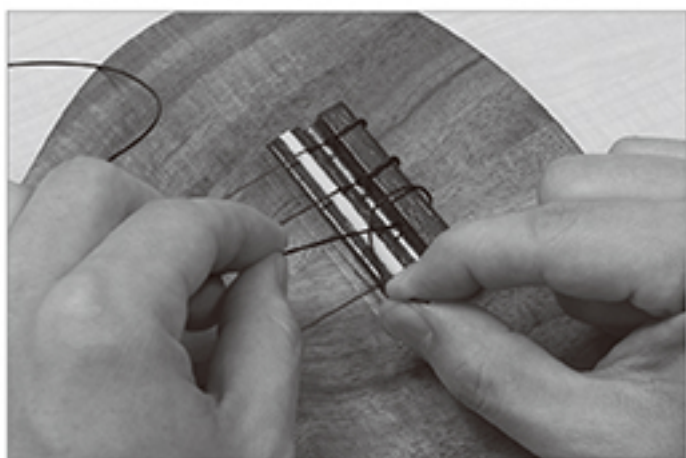
▲ブリッジ側の残った弦は、結び目をほどくようにして外します。

●手順3



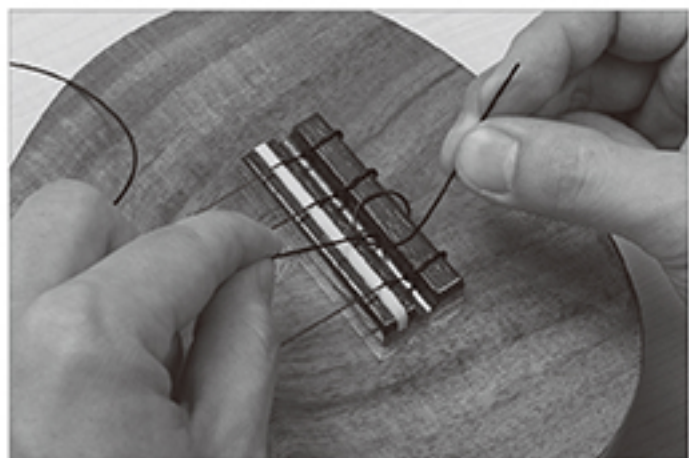
▲新しい弦をブリッジの穴に通します。必ず写真の方向から弦を通しましょう。

●手順4



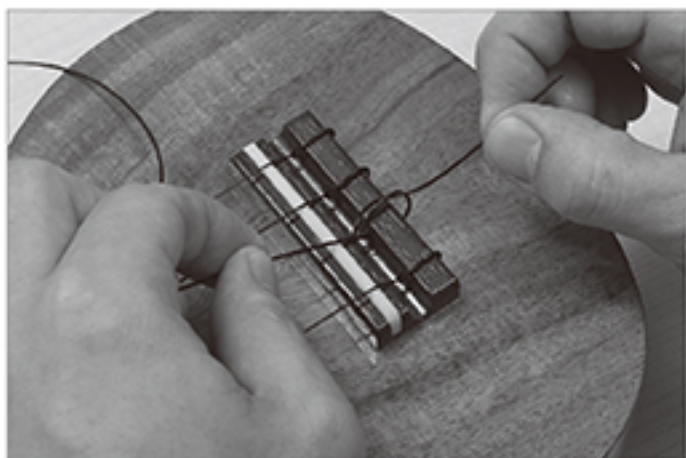
▲弦の先端部分を折り返して、長い方の下に通します。巻く分の弦の余分は写真ぐらいです。

●手順5



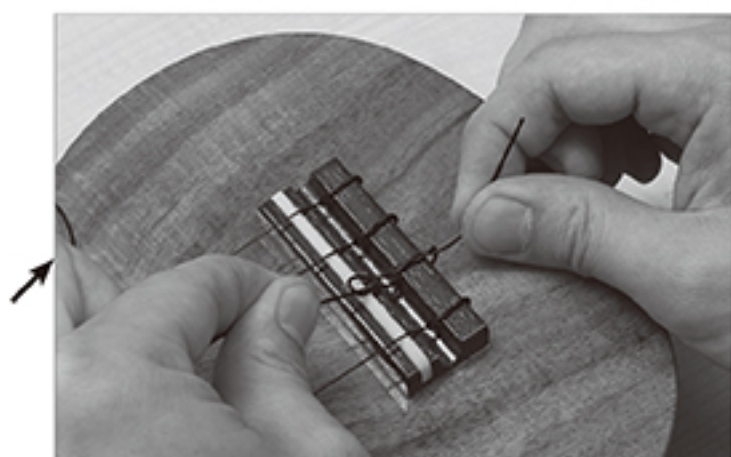
▲輪っかを作るように折り返します。

●手順6



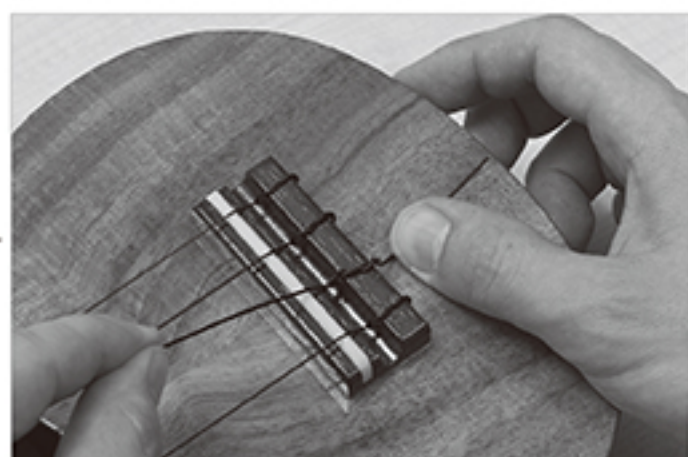
▲ブリッジ上の弦に折り返した弦を通します。

●手順7



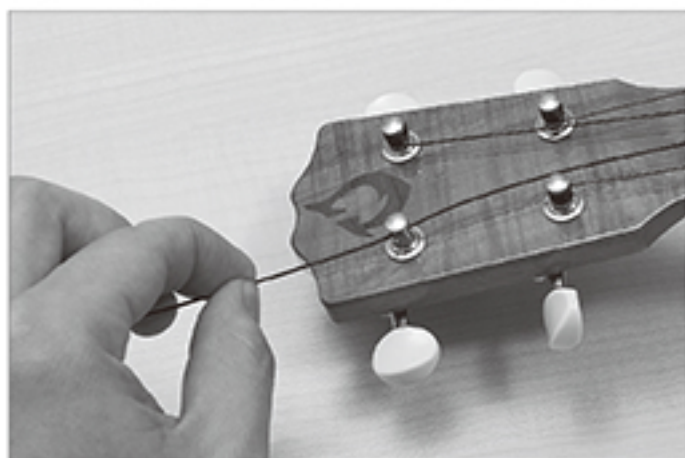
▲手順5、6を繰り返して、2回弦を通します。

●手順8



▲ブリッジ側の先端は弦の余りを残したまま、指板側に弦を引っ張ります。これで輪っかの結びが強くなります。

●手順9



▲弦をペグの穴に通し、巻く分の余分を5~6cmにし、そこを左手で持ちます。

●手順10



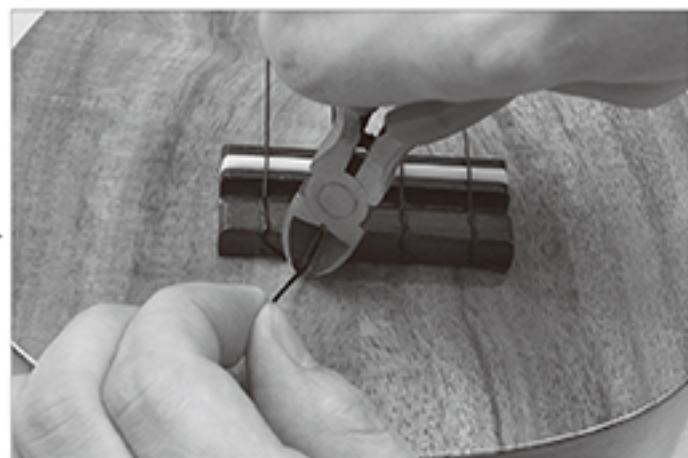
▲弦を右手で少し引っ張りながらペグを1回巻きます。このとき左手は弦から放します。

●手順11



▲弦を右手で引っ張り、ナットの溝に乗せペグに巻きます。弦が下に重なるようにしましょう。

●手順12



▲最後にブリッジから出ている弦の余りをニッパーで切りましょう。ヘッド部分も邪魔であれば切ります。

6 チューニング

チューニングとは、ウクレレの各弦の音の高さを合わせて、正しい音にすることで、とても大切なことです。ウクレレはチューニングが狂いやすい楽器ですので、弦交換をしたときだけでなく、弾く前にもチューニングをするようにしましょう。

各弦の音程

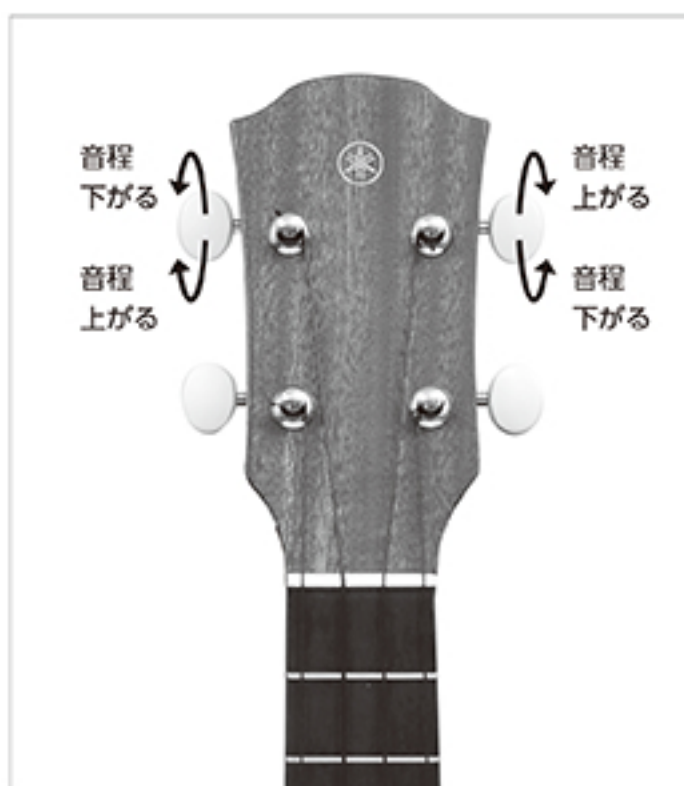
チューニングは開放弦に合わせる作業なので、それぞれの開放弦の音名を覚えましょう。



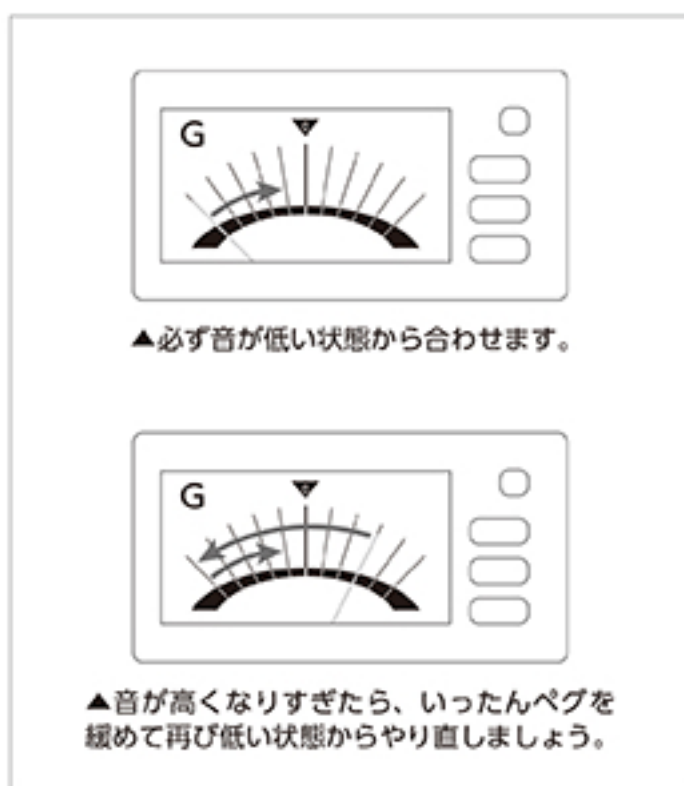
チューニングの方法

ペグを回す方向、チューナーの見方と注意点を確認しましょう。

●ペグを回す方向



●チューナーの見方



実際のチューニング

●手順1 >>4弦をGに合わせる



▲どこも押さえない状態(開放弦)で4弦の音を鳴らし、チューナーの表示が「G」になるまでペグを回します。

●手順2 >>3弦をCに合わせる



▲3弦の開放弦を鳴らし、チューナーの表示が「C」になるまでペグを回します。

●手順3 >>2弦をEに合わせる



▲2弦の開放弦を鳴らし、チューナーの表示が「E」になるまでペグを回します。

●手順4 >>1弦をAに合わせる



▲1弦の開放弦を鳴らし、チューナーの表示が「A」になるまでペグを回します。

●手順5 >> もう一度1～4弦をチューニングする

チューニングは一度では安定しません。1弦のチューニングが終わる頃には4弦が低くなっています。安定するまで最低2回は全ての弦をチューニングしましょう。



▲もう一度4弦……



▲3弦……



▲2弦……



▲1弦をチューニングしましょう。

POINT チューニングの注意点まとめ

[チューニングは一度だけでは安定しない]

弦は伸びてしまうので、チューニングしている最中にも、他の弦がまた緩んでしまいます。特に弦を張ったばかりの時期は安定しないので、何度も確認する習慣を付けるとよいでしょう。

[上がりすぎた音は、いったん大きく下げる]

チューニングしていて、音が上がりすぎた場合は、一度チューナーの目印が左側にくるまでペグを緩め、音程を下げた状態から再度調整しましょう。ナットへの引っ掛かりや、ペグ部分での弦の緩みがなくなり、より安定したチューニングになります。

[練習前に必ずチューニング]

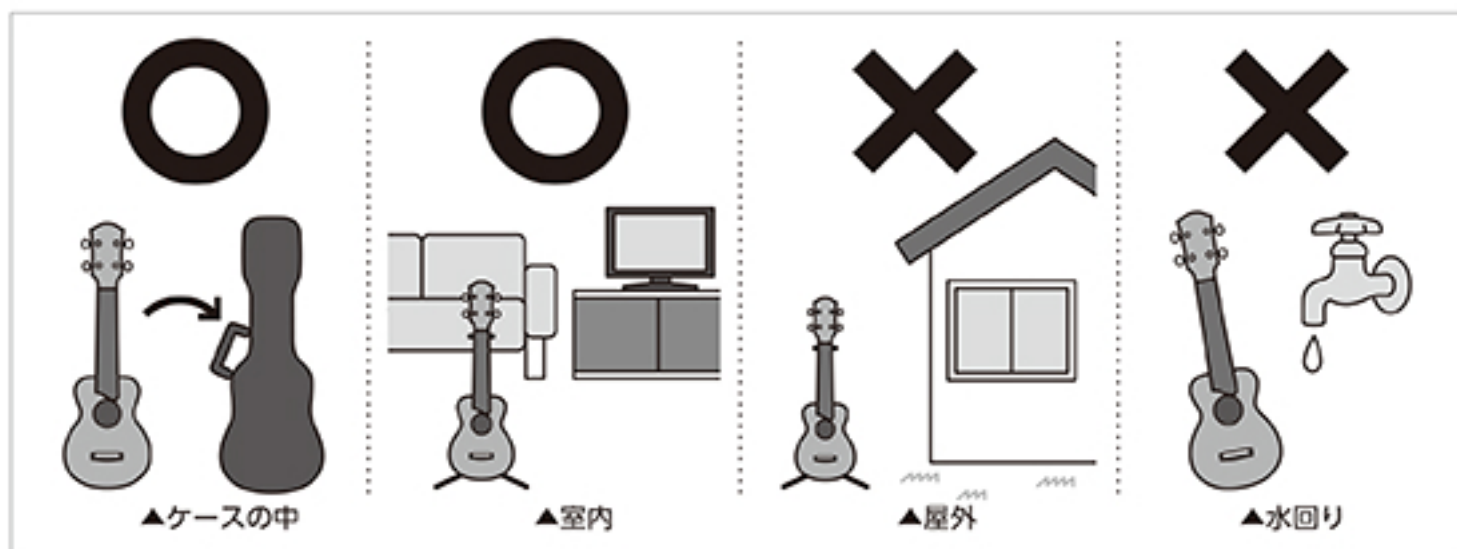
練習前には必ずチューニングをしましょう。弦は気温の変化でも収縮して音程が変わります。練習中もこまめにチューニングすることを習慣付けましょう。

7 日々のメンテナンス

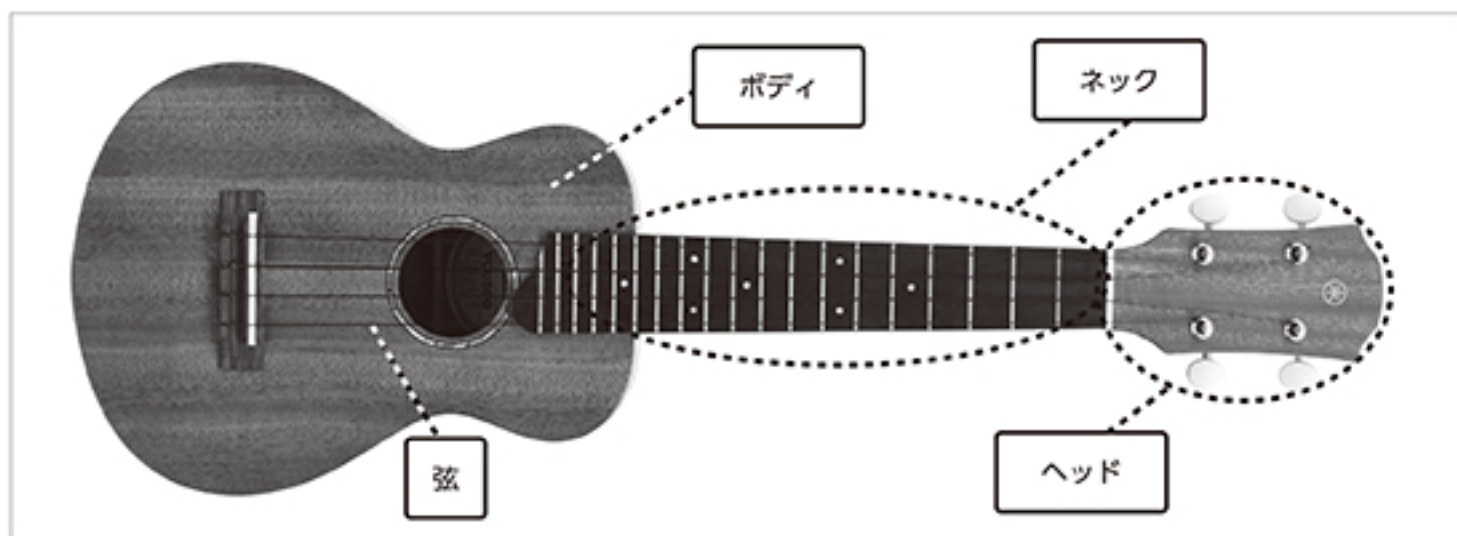
ウクレレを弾いた後に行うメンテナンスです。大切な楽器を長持ちさせるためにもぜひ実践しましょう。

保管場所

温度、湿度が急激に変化する場所は保管に適しません。また直射日光も避けましょう。



汚れ、汗は拭きとる



爪の手入れ

左手の爪は、弦を押さえる際に邪魔になるので、練習前に切りましょう。